

## 複数の企業データを用いたパネル・データ構築方法について

京都大学経済研究所  
先端政策分析研究センター研究員

行本雅

2016年4月

### 要旨

近年では、大規模な個票データを用いたパネル・データ分析が広く行われるようになりつつある。また、単一の調査データだけでなく、複数の調査データを接続したパネル・データを構築して分析を行うことも増えてきている。しかしながら、こうした調査データは必ずしもパネル・データとして利用することを前提に整備されていないことが多い。

このため、個票データを研究目的で利用する際には、個々の研究プロジェクトごとにデータの状態の確認やデータ・クリーニングから開始しなければならない。とりわけ複数の調査データを接続してパネル・データを構築する場合には、かなりの手間と時間を要することになる。

こうしたデータの整備作業は使用するデータに依存する部分が多いものの、データに関わらずある程度一般的に有用な処理も存在する。本稿は、比較的汎用性が高いと思われる処理についてまとめるとともにプログラム例を示すことで、今後の研究の用に供せんとするものである。

キーワード: パネル・データ構築、非標本誤差、企業データ

JEL: C81, C87, D22